

九条改憲不要 考え変わらず

岸田外相、国会で見解

岸田文雄外相は十一日午前の参院外交防衛委員会で、安倍晋三首相が憲法九条を改め二〇二〇年に施行したいと提案したことに関連し、九条改憲は当面不要とした自身の発言について「今現在、考え方は変わっていない」と語った。民進党の藤田幸久氏の質問に答えた。

岸田氏は「政府の一員で

場ではないか」と強調した。

公明・漆原氏

「唐突感ある」

首相の改憲発言

ある外相の立場で見解を述べることは控えたい」と前置きした上で、自民党の派閥・宏池会(岸田派)会長としての見解を示した。

岸田氏は二〇一五年十月に開いた宏池会の会合で、安全保障関連法の成立で自衛隊の活動範囲が拡大したことを踏まえ「当面、九条自体は改正することを考えない。これが私たちの立

公明党の漆原良夫中央幹事会会長は十一日午前の記者会見で、安倍晋三首相が憲法九条に自衛隊を明記する考えを読売新聞のインタビュウなどで示したことに「びっくりした。唐突感があるという感じだった」と語った。「自民党が

(改憲草案で)公式に示してきた内容と大きく違う」とも指摘し、自民党内で見解を調整するよう求めた。

読売新聞のインタビュウに關しては「一般紙を媒体

「読売熟読発言」

国会軽視でない

萩生田氏が釈明

萩生田光一官房副長官は十一日午前、衆院議院運営委員会の理事会で、安倍晋三首相(自民党総裁)が九条改憲の提案に關し「(インタビュウを掲載した)読売新聞を熟読して」と国会で答弁したことについて

に使ったことで、本来(衆参両院の)憲法審査会でやるべき問題への介入だと民進党は言っている。誤解を解く努力が必要だ」と強調した。

「野党理事の泉健太氏(民進)は「あのよくな答弁が許されれば、国会議事録の形骸化が進む」と批判した。同理事会に先立ち、民進党の山井和則国対委員長は記者会見で「頭越しに個人的な発言をして、(衆参両院の)憲法審査会の議論を混乱させたり、妨げたりするのを慎んでもらいたい」と批判。首相が何らかの謝罪や再発防止策を示す必要があると強調した。

「国会軽視の意図はなかったが、国会は党総裁としての立場を述べる場ではなく、発言を控えたいとの趣旨を述べた」と釈明した。

議運委の佐藤勉委員長は、萩生田氏に対し「丁寧な答弁を心がけてもらいたい」との思いは与野党で一致している」と指摘。「お互いを尊重し合い、有意義な質疑を行えるようにしても

期された。

首相発言に対する野党の反発で、十一日に予定されていた衆院憲法審査会は延期された。